

高齢者実態調査（１） 本人調査

現設問数 3 2 問 削除予定設問数 7 問 追加予定設問 2 問

NO.	新規設問	大項目	問	設問	質問内容	選択肢	設問の意図	調査結果の活用方法	質問内容修正案	回答選択肢修正案	質問内容及び回答選択肢修正の理由	削除理由	備考
1		(1) 調査回答者の基本属性	問2 (1)	本人の性別	あなたの性別をお答えください。	1 男性 2 女性 3 その他、または、答えたくない	この設問は回答者の性別を問う設問です。各設問とクロス集計することにより性別による傾向の違いを把握できます。	性別による支援の必要性やニーズの違い等を把握し、施策の検討に利用します。					
2		(1) 調査回答者の基本属性	問2 (2)	本人の年齢	あなたの年齢をお答えください。	1 65～69歳 2 70～74歳 3 75～79歳 4 80～84歳 5 85～89歳 6 90歳以上	この設問は在宅医療と介護を必要とする対象者の年齢を問う設問です。各年齢層における必要なサービスの把握を可能にします。	特に重点をおくべき年齢層を把握するとともに他の設問とクロス集計を行うことで今後さらに取り組むべき施策の検討に活用します。					
3		(1) 調査回答者の基本属性	問2 (3)	居住区	あなたのお住まいの区はどちらですか。	(省略)	この設問は在宅医療と介護を必要とする対象者の居住区を問う設問です。区単位で事業を推進していく必要があるためクロス集計に必要となります。	他の設問とクロス集計を行うことで各区単位の在宅医療と介護に関する需要と供給を把握し、事業推進に活用します。					
4		(1) 調査回答者の基本属性	問2 (4)	居住年数	あなたは、現在お住まいの区内に暮らし始めてどれくらい経ちますか。	1 1年未満 2 1～3年未満 3 3～5年未満 4 5～10年未満 5 10～20年未満 6 20～30年未満 7 30年以上 8 生まれてからずっと	この設問はお住まいの区内での居住年数を問う設問です。	他の設問とクロス集計することにより、居住年数の違いによる支援の必要性やニーズの違い等を把握し、施策の検討に利用します。					
5		(2) 世帯・住まいの状況	問3	世帯状況	あなたの世帯の状況についてお答えください。	1 ひとり暮らし 2 夫婦のみで、配偶者も65歳以上 3 夫婦のみで、配偶者が65歳未満 4 1～3以外の世帯で、全員65歳以上 5 その他の世帯（1～4以外の世帯）	この設問は世帯状況を問う設問です。各設問とクロス集計することにより世帯状況による傾向の違いを把握できます。	世帯状況による支援の必要性やニーズの違い等を把握し、施策の検討に利用します。ひとり暮らし高齢者の割合を把握することで重点的な対応策を講じるための検討に活用します。					
6		(2) 世帯・住まいの状況	問3-1	昼間の状況	あなたは、昼間、家の中で、ひとりになることがありますか。	1 週に0～1日 2 週に2～4日 3 週に5～6日 4 毎日	この設問は昼間独居の状況を確認するための設問です。昼間独居高齢者の割合を把握できます。	ひとり暮らし世帯以外の昼間独居の高齢者の状況を把握し、災害時等の支援の検討等に活用します。					

NO.	新規設問	大項目	問	設問	質問内容	選択肢	設問の意図	調査結果の活用方法	質問内容修正案	回答選択肢修正案	質問内容及び回答選択肢修正の理由	削除理由	備考
7		(3) 健康状態、健康に対する意識、日常生活の状況	問4	要介護・要支援認定状況	あなたの介護保険の申請、認定状況は、次のどれにあてはまりますか。 (○はひとつ) (介護保険被保険者証をお持ちの方は、保険者証の「要介護状態区分等」の欄に認定状況が記載されています。)	1 申請していない 2 現在申請中である(結果がでていない) 3 非該当(自立) 4 事業対象者 5 要支援1 6 要支援2 7 要介護1 8 要介護2 9 要介護3 10 要介護4 11 要介護5 12 わからない	この設問は対象者の介護度を問う設問です。各設問とクロス集計することにより介護度による傾向の違いを把握できます。	介護度による支援の必要性やニーズの違い等を把握し、施策の検討に利用します。					
8		(3) 健康状態、健康に対する意識、日常生活の状況	問5	介護が必要になった場合の暮らし方	あなたは、介護が必要になった場合、どのような暮らし方をしたいと思いますか。	1 ご家族などの介護を受けながら、現在の住宅に住み続けたい 2 介護保険サービスの居宅介護サービスを受けながら、現在の住宅に住み続けたい 3 高齢者向けに配慮された住宅(サービス付き高齢者向け住宅など)に入居したい 4 特別養護老人ホームや介護老人保健施設、介護医療院などの施設に入所したい 5 その他 6 わからない	施設整備の必要性を確認します。	計画第5章-1 地域包括ケアシステムの推進体制の充実で結果を引用します。					
							この設問は在宅医療のニーズを問う設問です。希望する暮らしを把握することで在宅医療を希望された場合の切れ目のない医療・介護提供体制の構築の実現の検討が可能になります。	事業の進捗管理を行うための評価指標として活用します。					
9		(3) 健康状態、健康に対する意識、日常生活の状況	問6	日常生活への不安	あなたは、日常生活全般で不安を感じていますか。	1 とても不安を感じる 2 多少不安を感じる 3 不安は感じない 4 わからない	この設問は日常生活で感じている不安の度合いを問う設問です。	高齢者の日常生活への不安の状況を経年変化で確認するための指標とします。					地域福祉実態調査(世論調査)質問14に類似設問あり

NO.	新規 設問	大項目	問	設問	質問内容	選択肢	設問の意図	調査結果の活用方法	質問内容修正案	回答選択肢修正案	質問内容及び回答選 肢修正の理由	削除理由	備考
10		(3)健康状態、 健康に対する意 識、日常生活の 状況	問6-1	日常生活への不安	あなたは、日常生活全般 で不安に感じることとはど のようなことですか。	1 あなたやご家族の健康のこと 2 急に具合(体調)が悪く なったりしたときのこと 3 日常の食事づくり 4 ひとりでの買い物など外出 すること 5 頼れる人がいなくなる こと 6 人(近隣、親戚、知人など) との付き合いのこと 7 預貯金の入出金や光熱費 の支払いなど、日々のお金 を管理すること 8 生活のための収入や預貯 金が減少すること 9 土地や家屋など財産のこと 10 困りごとなど相談する相 手がないこと 11 こどもや孫の自立に関す ること 12 悪質商法・いわゆる「オレ オレ詐欺」などの特殊詐欺の 被害にあうこと 13 自分自身やご家族が認 知症になること 14 地震や水害など災害に関 すること 15 その他	この設問は日常生活で 感じている不安の内容を 問う設問です。	高齢者が感じている不安 の内容から、支援やサー ビスのニーズを把握し施 策の検討に活用します。					地域福祉実態調査 (世論調査)質問 14に類似設問あり
11		(3)健康状態、 健康に対する意 識、日常生活の 状況	問7	在宅生活継続のた めの支援	あなたは、どのような支 援が身近にあれば、自宅 での生活を続けていける と思いますか。	1 毎日の食事の準備・後片づ けや掃除・洗濯など家事を手 伝ってもらえること 2 入浴やトイレなどを介助し てもらえること 3 病院まで送り迎えしてもら えること 4 自宅に来てくれる医師や歯 科医師、薬剤師、看護師など の専門職がいること 5 住宅を改修するための支援 (相談・補助・給付)を受けら れること 6 必要なときに施設に宿泊で きること 7 地域での見守り、隣近所の 人同士で声かけができてい ること 8 在宅での医療や介護サー ビスなどの24時間支援体制 ができていること 9 災害時や緊急時の支援体 制ができていること 10 その他	削除検討設問						事業の進捗管理を 行う上で活用しない ため。

NO.	新規設問	大項目	問	設問	質問内容	選択肢	設問の意図	調査結果の活用方法	質問内容修正案	回答選択肢修正案	質問内容及び回答選択肢修正の理由	削除理由	備考
12		(3) 健康状態、健康に対する意識、日常生活の状況	問8	新型コロナウイルス感染症の感染拡大の生活への影響	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、あなたの生活にはどのような影響がありましたか。	1 仕事をやめた(仕事が無くなった) 2 仕事をする日数や時間数が減った 3 ボランティア活動ができなくなった 4 ボランティア活動をする日数や時間数が減った 5 旅行や買い物などで外出することが減った 6 友人・知人や近所付き合いが減った 7 別居している家族と会う機会が減った 8 家族と過ごす時間が増えた 9 医療を受ける回数(通院回数など)が減った 10 医療を受ける医療費の支出が増えた 11 介護サービスを受ける回数が減った 12 メール、電話など、情報通信機器での連絡が増えた 13 その他の影響 ※いい影響も含め具体的にご記入ください。 14 特に影響はない(特に影響はなかった)	削除検討設問					コロナ禍の実態把握を目的として行っていた調査のため。	
13		(3) 健康状態、健康に対する意識、日常生活の状況	問9	新型コロナウイルス感染症の感染拡大の生活への影響	あなたは、新型コロナウイルス感染症に感染した経験はありますか。	1 ある 2 ない 3 わからない 4 答えたくない	削除検討設問					コロナ禍の実態把握を目的として行っていた調査のため。	利用者調査と重複
14		(3) 健康状態、健康に対する意識、日常生活の状況	問10	情報通信機器の利用状況	あなたが、情報収集や情報伝達のために、所有している情報通信機器を、すべてお答えください。 (〇はいくつでも) また、あなたが、ふだん、利用しているものをすべてお答えください。	本人調査_調査票P8 参照	この設問は、高齢者向けの支援や健康に関する情報をICTを活用して入手しているかを問う設問です。情報の入手経路としてICTを活用しているかを把握することで、介護予防啓発のための効果的な周知の検討の際に活用することが可能になります。	介護予防に関する普及啓発業務の効果測定に使用するとともに、頻度の高い情報入手経路を把握することで、ICT等を取り入れた介護予防の普及啓発事業での情報発信できる体制を検討する際に用います。 また、対象群や居住区ごとに比較し、地域診断を行い、今後の介護予防施策の基礎資料とします。 地域診断の結果については、各区で行う介護予防地域健康講座や介護予防地域情報発信の題材として活用します。					

NO.	新規設問	大項目	問	設問	質問内容	選択肢	設問の意図	調査結果の活用方法	質問内容修正案	回答選択肢修正案	質問内容及び回答選択肢修正の理由	削除理由	備考
15		(3) 健康状態、健康に対する意識、日常生活の状況	問Ⅱ	情報通信機器の利用状況	あなたは、情報通信機器を使って、どのようなことをされますか。あてはまるものをすべてあげてください。	1 固定電話やファックスで家族・友人などと連絡をとる 2 パソコンの電子メールで家族・友人などと連絡をとる 3 携帯電話・スマートフォンで家族・友人などと連絡をとる（LINEや携帯電話のメールを含む。） 4 インターネットで情報を集めたり、ショッピングをする 5 SNS（Twitter、facebook、Instagramなど）を利用する 6 ビデオ通話（LINE、Zoom、Skypeなど）を行う 7 ゲームをする 8 ホームページやブログへの書き込みまたは開設・更新をする 9 ネットバンキングや金融取引（証券・保険取引など）をする 10 国や市など行政の手続きをインターネットで行う（電子政府・電子自治体） 11 いずれも使わない	この設問は、高齢者がICTを活用しているかを問う設問です。ICTを活用した介護予防事業を企画検討する際に活用することが可能になります。	ICTを活用した一般介護予防事業の企画立案や事業評価に使用します。また、対象群や居住区ごとに比較し、地域診断を行い、今後の介護予防施策の基礎資料とします。地域診断の結果については、各区で行う介護予防地域健康講座や介護予防地域情報発信の題材として活用します。					
16		(3) 健康状態、健康に対する意識、日常生活の状況	問Ⅱ-1	情報通信機器の利用状況	情報通信機器をお使いにならないのはなぜですか。	1 必要性を感じないから 2 使い方がわからず、面倒だから 3 興味はあるが購入場所、購入方法などがわからないから 4 使い方を覚えたいが、教えてくれる人がいないから 5 お金がかかるから 6 文字が見えにくいから 7 音声がかえづらいから 8 指先が動きづらく操作しづらいから 9 その他	削除検討設問					事業の進捗管理を行う上で活用しないため。	

NO.	新規 設問	大項目	問	設問	質問内容	選択肢	設問の意図	調査結果の活用方法	質問内容修正案	回答選択肢修正案	質問内容及び回答選択 肢修正の理由	削除理由	備考
17		(3) 健康状態、 健康に対する意 識、日常生活の 状況	問12	医療の相談先	在宅で生活をしていて医 療が必要になった時、ど こに相談されますか。	1 かかりつけの医師 2 かかりつけの歯科医師 3 かかりつけの薬剤師 4 訪問看護ステーション 5 地域包括支援センター※ま たは総合相談窓口(プランチ) ※ 6 ホームヘルパー 7 介護支援専門員(ケアマネ ジャー)※ 8 区役所・保健福祉センター 9 ご家族・親族 10 友人・知人 11 その他 12 わからない	この設問は多職種・多機 関との関わりの状況を問 う設問です。 在宅医療が必要になった 際の連携先を把握するこ とが可能になります。						
18		(3) 健康状態、 健康に対する意 識、日常生活の 状況	問13	在宅で提供される 医療	あなたは、希望すれば在 宅医療を受けられること を知っていますか。	1 知っている 2 知らない	この設問は在宅医療に関 する認知度を問う設問で す。 希望すれば受けられる医 療・介護サービスに関す る周知・啓発の検討に活 用することが可能になり ます。	事業の進捗管理を行うた めの評価指標として活用 します。					
19		(3) 健康状態、 健康に対する意 識、日常生活の 状況	問14	在宅で提供される 医療	次の項目それぞれについ て「利用している」「利用 していないが知っている」 「知らない」のいずれか 該当するものを番号で選 んでください。	本人調査_調査票P10 参照	この設問は在宅医療の認 知度及び利用の有無に ついて問う設問です。 状況を把握することで必 要なサービスを把握し提 供体制の構築を推進する ことが可能になります。	認知度及び利用状況を 把握することで今後の在 宅医療に関する周知・啓 発の検討に活用すること ができます。					
20		(3) 健康状態、 健康に対する意 識、日常生活の 状況	問15	在宅で提供される 医療	あなたは、『人生会議(A CP)※』について知って いますか。	1 名前も内容も知っている 2 名前は知っているが、内容 は知らない 3 名前も内容も知らない	この設問は人生の最終段 階についての話し合いの プロセスである人生会議 の認知度について問う設 問です。 認知度を把握し今後の周 知・啓発の検討に活用す ることが可能になります。	事業の進捗管理を行うた めの評価指標として活用 します。					

NO.	新規設問	大項目	問	設問	質問内容	選択肢	設問の意図	調査結果の活用方法	質問内容修正案	回答選択肢修正案	質問内容及び回答選択肢修正の理由	削除理由	備考
21		(3)健康状態、健康に対する意識、日常生活の状況	問16	人生の最終段階に過ごしたい場所	万一、あなたが治る見込みのない病気になった場合、人生の最終段階をどこで過ごしたいですか。なお、必要な医療については、それぞれの場所で受けることができるものとしてお答えください。	1 自宅 2 子どもの家や親族の家 3 高齢者向け住宅 4 特別養護老人ホームや介護付き有料老人ホーム※などの介護施設 5 介護医療院※など、病院内に併設される「住まい」の機能を重視した施設 6 病院などの医療機関 7 その他 8 わからない	この設問は在宅で人生の最終段階を過ごしたいかを問う設問です。在宅を希望する場合に住み慣れた地域で人生の最期を過ごすことができるよう体制づくりの検討を可能にします。	事業の進捗管理を行うための評価指標として活用します。					
22		(3)健康状態、健康に対する意識、日常生活の状況	問17	人生の最終段階についての話し合いの有無	問16の人生の最終段階の過ごし方について、誰かと話し合ったことがありますか。	1 はい 2 いいえ	この設問は人生の最終段階についての話し合いの状況を問う設問です。認知度を把握し今後の周知・啓発の検討に活用することが可能になります。	人生会議(ACP)の認知度とともに今後の周知・啓発の検討に活用します。					
23		(3)健康状態、健康に対する意識、日常生活の状況	問17-1	人生の最終段階についての話し合いの有無	誰と話し合われましたか。	1 ご家族・親族 2 友人・知人 3 かかりつけの医師 4 介護支援専門員(ケアマネジャー) 5 その他	この設問は人生の最終段階の話し合いについての共有状況を問う設問です。共有相手を把握し今後の周知・啓発の検討に活用することが可能になります。	話し合いの状況を把握するとともに今後の周知・啓発の検討に活用します。					
24		(3)健康状態、健康に対する意識、日常生活の状況	問17-2	人生の最終段階についての話し合いの有無	決めた内容を文書に記載するなど共有できるようにしていますか。	1 はい 2 いいえ	この設問は人生の最終段階の話し合いについての共有状況を問う設問です。共有方法を把握し今後の周知・啓発の検討に活用することが可能になります。	話し合いの状況を把握するとともに今後の周知・啓発の検討に活用します。					
25		(4)地域生活支援	問18	認知症の認知度	あなたは「認知症」という病気を知っていますか。	1 原因となる病気や症状などについてだいたいわかる 2 言葉は聞いたことがあるが、原因となる病気や症状などについてはわからない 3 わからない	この設問は認知症についての認知度を問う設問です。認知症の認知度を把握することで、今後の普及啓発の検討の際に活用することが可能になります。	認知症に関する理解促進を進めるためには、現在の認知症に関する認知度を把握する必要がある、今後の認知症に関する普及啓発の方向を検討するのに用います。					

NO.	新規 設問	大項目	問	設問	質問内容	選択肢	設問の意図	調査結果の活用方法	質問内容修正案	回答選択肢修正案	質問内容及び回答選 肢修正の理由	削除理由	備考
26		(4) 地域生活支 援	問19	認知症の人の支援	あなたは、認知症の人の 支援に必要なことは何だ と思いますか。(〇はいく つでも)	1 認知症に関する相談窓口 の充実 2 認知症の早期発見への取 組み 3 病院やかかりつけの医師に おける、認知症に関する医療 サービスの充実 4 ご家族や地域の人、職場な どでの認知症についての理解 が深まること 5 介護職員が行う認知症ケア の質の向上 6 認知症の人を介護するご家 族に対する支援 7 認知症に関する介護保険 サービスや福祉サービスの充 実 8 認知症の人自らが社会の 中で役割を得て活動する場の 確保 9 認知症の人やその家族が 気軽に立ち寄ることができる 集いの場（認知症カフェ等）の 充実 10 認知症予防（認知症にな るのを遅らせる、認知症にな っても進行を緩やかにするとい う意味）に関する取組みの充実 11 認知症の人に対する虐待 防止や本人の財産を守る（消 費者被害の防止等）などの権 利養護に関する支援 12 その他 13 わからない	この設問は認知症の人の 支援に必要なと思うもの を問う設問です。 認知症の人への支援 ニーズを把握することで、 今後の認知症施策の検 討の際に活用することが 可能になります。	認知症施策に関するニー ズを把握するのに用いま す。					
27		(4) 地域生活支 援	問20	孤立死について	あなたは、孤立死につい てどのように考えますか。	1 身近に感じる 2 やや身近に感じる 3 あまり身近に感じない 4 身近に感じない 5 わからない	高齢者の孤立死への意 識を問う設問です。孤立 感にかかる実態の把握 が可能となります。	地域福祉基本計画に調 査結果を記載し、見守り 活動ほか地域における取 り組みの強化及び認知 度向上の必要性の判断 指標とします。					現在分析は男女比 較のみであり、女性 の方が孤立死を身 近に感じると多く回 答しているが、女性 の方が平均寿命が 高いため、男女別の 分析は適切ではな いのでは。
28		(4) 地域生活支 援	問20-1	孤立死について	あなたが身近だと感じる 理由は次のどれにあた りますか。	1 親族との付き合いが少ない から 2 近所との付き合いが少ない から 3 友人との付き合いが少ない から 4 あまり外出しないから 5 病気がちで、健康に不安が あるから 6 その他 7 特に理由はない	高齢者の孤立死への意 識を問う設問です。孤立 感にかかる実態の把握 が可能となります。	地域福祉基本計画に調 査結果を記載し、見守り 活動ほか地域における取 り組みの強化及び認知 度向上の必要性の判断 指標とします。					

NO.	新規設問	大項目	問	設問	質問内容	選択肢	設問の意図	調査結果の活用方法	質問内容修正案	回答選択肢修正案	質問内容及び回答選択肢修正の理由	削除理由	備考
29		(4) 地域生活支援	問21	地域での見守り活動の認知度と必要性	孤立死を防ぐためには地域での見守りが必要です。支援を必要とする高齢者等を日常的に見守るための次の取組みのうち、あなたが知っている取組み、及び必要と思う取組みに○をつけてください。	本人調査_調査票P15 参照	削除検討設問					地域福祉実態調査（世論調査）質問17に類似設問があるため	R4調査では無回答が多い（38.8%）
30		(4) 地域生活支援	問22	災害時・緊急時の避難	あなたは、災害時や緊急時にひとりで避難することができますか。	1 避難できる 2 ひとりで判断できるが、避難はできない 3 ひとりで判断できないし、避難もできない 4 わからない	避難支援の要否を問う設問です。避難行動要支援者の実態の把握が可能となります。	問22-1と併せて、「支え合う地域づくり」に向けた地域福祉施策の進捗を確認する指標とします。					
31		(4) 地域生活支援	問22-1	災害時・緊急時の避難	災害時や緊急時に、手助けを頼める人（同居者を含む）はいますか。	1 常時いる 2 時間帯によってはいる 3 いない 4 わからない	避難支援実施者の有無を問う設問です。避難行動要支援者のおかれている実態の把握が可能となります。	「支え合う地域づくり」に向けた地域福祉施策の進捗を確認する指標とします。					
32		(4) 地域生活支援	問23	災害時の心配事	あなたは、災害が起きた時の心配事がありますか。	1 避難情報がわからない 2 避難所が遠い 3 浸水の恐れなどがある 4 家が倒壊の恐れがある 5 同居のご家族が動けない 6 避難所までの移動手段がない 7 避難場所がわからない 8 わからない 9 その他 10 心配事は特にな	災害時の心配事を問う設問です。避難行動要支援者のおかれている現状の把握が可能となります。	地域福祉基本計画に調査結果を記載し、地域防災活動ほか地域における取り組みの強化及び認知度向上の必要性の判断指標とします。					選択肢1の『避難情報』とは何のことか分からないので具体的に示した方がよいのではないかと。
33		(4) 地域生活支援	問24	地域包括支援センター・総合相談窓口（プランチ）の利用状況・満足度	あなたは、地域包括支援センターまたは総合相談窓口（プランチ）を利用したことがありますか。	1 利用したことがある（知っている） 2 知っているが、利用したことはない 3 聞いたことはあるが、何をしたらわからない 4 聞いたことがない（知らない）	この設問は、地域包括支援センターの認知度を問う設問です。真に必要とされる方が地域包括支援センターに相談でき、適切に課題が解決されるよう、地域包括支援センターの機能や役割を理解してもらう必要があり、これを把握することで、周知・広報活動の検討に活用することが可能となります。	地域包括支援センターの認知度を把握し、効果的な周知・広報を図るための指標として活用しています。					

NO.	新規 設問	大項目	問	設問	質問内容	選択肢	設問の意図	調査結果の活用方法	質問内容修正案	回答選択肢修正案	質問内容及び回答選択 肢修正の理由	削除理由	備考
34		(4) 地域生活支 援	問24-1	地域包括支援セン ター・総合相談窓口 (ブランチ) の利用 状況・満足度	あなたは、地域包括支援 センターまたは総合相談 窓口(ブランチ)をどのよ うにして知りましたか。主 なものをひとつ選んでお 答えください。	1 区役所・保健福祉センター から聞いた 2 介護支援専門員(ケアマネ ジャー)・ホームヘルパー・施 設職員などから聞いた 3 かかりつけの医師や病院な ど医療機関から聞いた 4 民生委員・町会などの地域 役員から聞いた 5 ご家族・友人、知人から聞 いた 6 パンフレットや資料から知っ た 7 インターネットを通じて知っ た 8 その他	この設問は地域包括支 援センターの周知・広報 のため、周知方法や周知 先を検討するための設問 です。地域包括支援セン ターを利用された方の主 な情報源を確認すること で、効果的な周知方法や 周知先を的確に設定す ることが可能になります。	真に必要とされる方が地 域包括支援センターを利用 できるよう、効果的な 周知・広報先の把握に活 用しています。					
35		(4) 地域生活支 援	問24-2	地域包括支援セン ター・ブランチの利 用状況・満足度	あなたが、地域包括支援 センターまたは総合相談 窓口(ブランチ)を利用 (相談)された目的につ いて、次の1～9に○をつ けてください。(○はいく つでも)また、その時の満 足度についてあてはまる ものに○をつけてくださ い。	本人調査_調査票P18 参照	この設問は、地域包括支 援センターを利用された 方が感じられた満足度を 問う設問です。これを把 握することで、地域包括 支援センター職員の資質 向上のための研修内容 検討に活用することが可 能になります。	地域包括支援センター職 員の資質向上を目的とし た研修内容検討に使用し ています。また、地域包括 支援センター運営法人に 対する助言・支援としても 活用しています。					
36		(4) 地域生活支 援	問25	高齢者虐待の相談 先	あなたは、あなた又はあ なたの周囲の高齢者が暴 言、身体拘束や閉じ込 め、介護や世話の放棄、 年金の使い込みといった 「高齢者虐待」を受けた 場合の通報・相談先をご 存じですか。	1 知っている 2 知らない	この設問は高齢者虐待の 相談先について当事者 の認知度を問うものであ り、認知度を把握するこ とで効果的な啓発方法及 び対象者の検討が可能 となります。なお、高齢者 虐待の被虐待者となる可 能性のある当事者を対象 とした調査において、他 に同様の設問は存在せ ず、「高齢者虐待の相談 先」に関して当事者の認 知度を把握可能な物は、 当該調査の当該設問以外 にありません。	「高齢者虐待の防止、高 齢者の養護者に対する支 援等に関する法律」にお いて、国及び地方公共団 体は高齢者虐待にかか る通報義務等について必 要な広報その他啓発活 動を行うこととされてお り、本市においては高齢 者虐待防止の取り組み の推進事業において、広 報及び啓発のための取 組を進めています。設問 により当事者の認知度を 把握し、事業の効果を一 定測定し、見直しの検討 が可能となります。					
37		(4) 地域生活支 援	問26	消費者被害の経験	あなたは、これまでに消 費者被害にあったこと や、あいそうになったこ とはありますか。	1 ある 2 ない	削除検討設問					民間ネット調査「消 費生活に関する意 識調査について」に 類似質問があるた め。	経験を問うている設 問であるため、より 高齢の方が「 ある」の割合が高 くなるのは当然。

NO.	新規設問	大項目	問	設問	質問内容	選択肢	設問の意図	調査結果の活用方法	質問内容修正案	回答選択肢修正案	質問内容及び回答選択肢修正の理由	削除理由	備考
38		(4) 地域生活支援	問27	老人福祉センターの利用状況	老人福祉センター※について、あなたの利用状況をお答えください。	1 利用している 2 利用していない	削除検討設問					前回調査において傾向の把握ができたため	
39		(4) 地域生活支援	問27-1	老人福祉センターの利用状況	問27で「2 利用していない」と回答された方におうかがいします。「利用していない」のはどのような理由からですか。	1 サービス内容を知らない 2 サービス内容に魅力がない 3 仕事・地域活動等が忙しい 4 施設が自宅から遠い 5 ひとりりて施設に入りにくい 6 施設がどこにあるか知らない 7 その他							
40		(5) 将来の介護や援護に対する考え	問28	特別養護老人ホーム入所意向	あなたは、特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）に入所することになった場合、どちらの施設に入りたいと思われますか。	1 多床室の特別養護老人ホーム 2 ユニット型個室の特別養護老人ホーム 3 どちらでもよい	多床室での整備を認める必要性の確認。	現在はユニット型を基本としつつ、多床室での整備も認めることとしているが、この方針を継続することの是非を検証します。					
41		(5) 将来の介護や援護に対する考え	問29	特別養護老人ホームの整備と介護保険料	特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）の整備についておたずねします。特別養護老人ホームの整備が進めば、介護保険料が高くなりますが、あなたは、今後の整備についてどう思われますか。	1 介護保険料がある程度高くなっても、今後も特別養護老人ホームを増やす必要があると思う 2 介護保険料が高くなるのは困るが、ある程度増やす必要があると思う 3 特別養護老人ホームをこれ以上増やす必要はないと思う 4 わからない	施設（特養）整備と介護保険料のバランスについて、市民の意向を確認します。	計画第5章-5高齢者の多様な住まい方の支援で結果を引用します。	1 介護保険料がある程度高くなっても、今後も特別養護老人ホームを増やす必要があると思う 2 介護保険料が高くなるのは困るが、ある程度増やす必要があると思う 3 2 特別養護老人ホームをこれ以上増やす必要はないと思う 4 わからない	不要な選択肢であると思われるため削除			
42	○	介護保険サービスと介護保険料		介護保険サービスと介護保険料	介護保険サービスの充実が進めば、介護保険料が高額になっていきますが、あなたは、今後の介護保険サービスについてどう思われますか。	1 介護保険料がもっと高くなっても、介護保険サービスを充実させる必要があると思う 2 介護保険料が高くなるのは困るが、介護保険サービスを充実させる必要があると思う 3 介護保険料が高くなるなら、介護保険サービスをこれ以上充実させる必要はないと思う 4 介護保険料を下げるために、介護保険サービス利用の適正化が必要だと思う 5 わからない	介護保険サービスの充実と介護保険料のバランスについて、被保険者の意向を確認します。	介護保険料の算定や介護保険サービスの質の向上について検討します。					

NO.	新規設問	大項目	問	設問	質問内容	選択肢	設問の意図	調査結果の活用方法	質問内容修正案	回答選択肢修正案	質問内容及び回答選択肢修正の理由	削除理由	備考
43	○	介護保険サービスと介護保険料		介護保険サービスと介護保険料	介護保険料の上昇を抑制するために、どのような取組が必要だと思われますか。	1 介護保険サービスの利用を減らすために、介護が必要な状態にならないよう予防する 2 要介護認定の審査をさらに厳格化する 3 利用者が真に必要なとする過不足のないサービス利用をするように啓発する 4 介護保険サービス事業所に対する運営指導をもっと実施する 5 介護保険サービス以外で、在宅介護の支援をもっと充実させる 6 わからない	介護保険サービスの充実と介護保険料のバランスについて、被保険者の意向を確認します。	介護保険料の算定や介護保険サービスの質の向上について検討します。					
44		(6) 高齢者施設全般	問30	本市関連施設・事業の利用状況・意向	次の施設や事業について、あなたの利用状況や意向をお答えください。	本人調査_調査票P22 参照	所管事業に関する利用状況や意向を問う設問。高齢主の方のニーズや参加の意向を把握します。 就労的活動支援コーディネーター事業との関りの中で、高齢者のボランティア活動への意識について把握します。	取りまとめ結果をもとに、所管事業に関する利用状況やニーズを把握し、事業の継続又は見直し等を行います。 把握した状況をふまえ、今後の施策施策策定等に資する基礎資料とします。		「いきがい」欄の選択肢に「就労的活動の支援」を追加			
45		(6) 高齢者施設全般	問31	自立支援・重度化防止に役立つケアマネジメントについて	ケアマネジャーから、いつまでも住み慣れた地域でいきいきと生活続けることに役立つケアプランが提案された場合、そのプランに含まれるリハビリテーション等を実施してみたいですか。	1 実施したい 2 実施したくない	この設問は、自立支援・重度化防止に対する考え方が利用者に理解されているか、また、その意思を問う設問です。これを把握することで、利用者の意識の変化や介護支援専門員への自立支援に向けた理解やスキルアップの研修内容検討に活用することが可能になります。	地域包括支援センター職員や介護支援専門員等の専門職の、自立支援・重度化防止に資するケアマネジメントを支援する地域ケア会議の推進や研修内容検討に活用しています。	ケアマネジャーから、いつまでも地域でいきいきと生活続けることに役立つケアプランが提案された場合、そのプランに含まれるリハビリテーション等を実施してみたいですか。	第9期計画の文言に合わせるため「住み慣れた」を削除			
46		(6) 高齢者施設全般	問32	重点を置いてほしい高齢者施策	あなたは、高齢者のための施策としてどのような点に重点を置くべきだと考えますか。主なものに3つまで○をつけてください。	本人調査_調査票P24 参照	削除検討設問					事業の進捗管理を行う上で活用しないため。	
47		(7) 高齢者施策に関する意見・要望等		◎高齢者施策に関する意見・要望など（自由記述）	大阪市の高齢者施策についてのご意見・ご要望などを、次の欄に記入してください。								